

2 各種委員会報告

2.1 図書委員会

2021 年度は図書委員会を 4 回開催した。このほか、臨時のメール会議を 1 回開催した。各回の主な審議事項は下記のとおりである。

- | | |
|--------------------|---|
| 第 1 回 5 月 17 日 | Zoom 会議
① 2021 年度図書委員会構成について
② 2021 年度図書委員会開催日程について |
| 第 2 回 6 月 23 日 | Zoom 会議
① 第 3 期中期計画（2022 ～ 2026 年度）の策定について
② 2022 年度教育・研究に関する年度計画書の作成について |
| 第 3 回 10 月 27 日 | Zoom 会議
① 2022 年度予算経費要求方針について |
| 第 4 回 2 月 28 日 | Zoom 会議
① 2022 年度予算配分について
② 2022 年度図書館各種資料申込みについて
③ 電子資料分科会運営内規／アフリカ文庫選定分科会運営内規／ケベック文庫選定分科会運営内規の改正について
④ 2022 年度図書館開館スケジュールについて |
| 7 月 19 日～ 7 月 23 日 | メール会議
① 生田新図書館基本コンセプト策定WG の設置について |

2.2 特別資料選定分科会

第 5 回電子資料分科会で選定された資料の内、1 件 300 万円を超える資料 7 点について推薦があった。メールによる審議の結果、7 点全ての購入を決定した。購入内容は別項「9.1 資料購入一覧」の通り。

2.3 電子資料分科会

2021 年度は以下の日程で分科会を開催した。審議事項は下記のとおりである。

- | | |
|------------------------------|---|
| 第 1 回（7 月 16 日・オンライン） | ：2022 年中止候補
2021 年度新規学習用雑誌・バックナンバー申込 |
| 第 2 回（9 月 27 日・オンライン） | ：2021 年度新規バックナンバー申込
2021 年度研究用雑誌・新聞及びデータベースの選定
2021 年度研究用雑誌・新聞及びデータベースの新規購入申込 |
| 第 3 回（11 月 15 日・オンライン） | ：新規予算費目の設定
2021 年度新規研究用雑誌・バックナンバー・電子資料（データベース）申込 |
| 第 4 回（12 月 17 日～ 23 日・メール会議） | ：2021 年度新規研究用雑誌再審議 |
| 第 5 回（1 月 14 日～ 20 日・メール会議） | ：2021 年度新規バックナンバー・データベース（買切）の優先順位
2021 年度新規学習用雑誌申込 |
| 第 6 回（オンライン・2 月 25 日） | ：明治大学図書館雑誌除籍方針（案）
各種資料申込一覧の変更に関わる分科会の審議事項の変更 |

2021 年度も引き続きオンラインもしくはメールで分科会が開催された。予算執行状況から判断し秋学期以降新規購入申請受付を実施し、予算上限額に沿って研究用雑誌・データベースの新規購入申請について審議を進めた。その利便性や需要の高まりもあり、前年度以上に多数の国内外のデータベース等が申請された。一定額以上の買切製品については別途選定分科会への推薦としたが、次年度以降は本分科会で選定可能となる新設

予算について審議を行った。

2021 年度に申請され新規契約・購入となった資料については、別項「9.1 資料購入一覧」を参照のこと。上記のとおり、新規データベース購入申請のうち、ジャーナル・アーカイブではない買切データベースについては図書館基礎資料選定分科会・特別資料選定分科会に推薦し、選定は各分科会で行われた。

2.4 図書館基礎資料選定分科会

本年度はメールによる審議の結果、選定候補から購入資料を決定した。購入内容は別項「9.1 資料購入一覧（1）図書館基礎資料」のとおり。

2.5 アフリカ文庫選定分科会

11 月 9 日に第 1 回分科会をオンラインにより開催し、2021 年度の選定方法を決定した。2 タイトル 7 冊の継続発注を決定し、そのほか委員の選定により和書 13 冊、洋書 17 冊を新規に購入した。洋書は 2021 年度の主要な文学賞（ノーベル文学賞・ゴンクール賞・ブッカー賞）をアフリカの作家が受賞しており、座長の推薦によりこれらの受賞作を購入した。

また、11 月 19 日～11 月 26 日にメール審議を行い、アフリカ文庫選定基準を策定した。

2.6 蘆田文庫選定分科会

本年度はメールによる審議の結果、選定候補から以下 2 点の資料の購入を決定した。

■訂書蝦夷圖境輿地全図 尾張藩・秦世寿編（嘉永 7 年写）

■北蝦夷地見分図 倉内忠右衛門（安政 6 年）

2.7 江戸文藝文庫選定分科会

本年度はメールによる審議の結果、以下 5 点の資料を購入した。

■赤松満祐梅白簾 / 武田交來綴；陽州周延画。― 東京：大倉孫兵衛，明治 12 [1879] 序

■綴合於傳假名書 / 武田交來綴；梅堂國政画。― 東京：大倉孫兵衛，明治 12 [1879] 序

■万字屋玉桐とうらうの番付 6 巻 / 式亭三馬作；歌川国直画。― 江戸：鶴屋喜右衛門板，[文化 11 1814]

■両面摺娘年代記 6 巻（存 1-3 巻） / [京山作；國貞画]。― 江戸：西村屋興八，文化 12 [1815]

■夢想兵衛勘略枕 5 編 20 巻 / 笠亭仙果鈔録；一勇齋國芳画。― 大阪：八尾屋善助板，[嘉永 7 (1854)- 安政 3 (1856)]

2.8 ケベック文庫選定分科会

2021 年度は、下記のとおり分科会が開催された。

第 1 回（10 月 29 日・オンライン）ケベック文庫選定基準の改訂について

2021 年度のケベック文庫選定方法について

審議の結果、選定基準の改訂と 2021 年度の選定方法について承認された。分科会開催後、承認された選定方法に沿って資料の選定・購入が行われた（仏語 8 点、英語 7 点）。

2.9 日本近代文学文庫選書分科会

6 月 7 日から 14 日までメールによる分科会を開催し、日本近代文学文庫選書基準及び選書方法を確認した。2021 年度は以下の全 5 点の資料を購入した。

■御濠端：鐫木清方絵入本 / 鐫木清方画。-- 双雅房，1938

■映山紅 / 志賀直哉作。-- 草木屋出版部，1940

■雲南守備兵 / 木村庄十著。-- 博文館，1941。--（國民文藝叢書）

■二人妻 / 永井荷風著。-- 東光閣書店，1923。--（三田文學叢書；第 1 編）

■或る脚本家 / 武者小路實篤著。-- 玄文社，1918

2.10 学術成果リポジトリ運営部会

2021 年度は部会を開催しなかった。学術成果リポジトリの登録状況等は、「3.1 図書館総務事務室（6）リポジトリ業務」を参照。

2.11 図書館振興資金運営部会

2021 年度は図書館振興資金運営部会を下記のとおり開催した。

第 1 回（2021 年 5 月 1 日～5 月 11 日、メール会議） 2021 年度事業計画について

第 2 回（2022 年 2 月 28 日） 収支残額の引当特定資産への積立について

明治大学図書館振興資金は、2018 年度に設定されてから 4 年を経過し、引き続き積立てを継続中である。2021 年度は 13 件、475,088 円の寄付を受け、果実を含む積立額は 2,710,453 円となった。

2.12 図書館紀要編集部会

2021 年度は 7 月 14 日にオンライン（Zoom）で部会を開催し、図書館紀要『図書の譜』第 26 号について審議した。

『図書の譜』第 26 号を刊行した（A5 版、196 頁、2022 年 3 月 31 日刊行、400 部発行）。内容は、「5 刊行物」に掲載の目次を参照。

2.13 書評コンテスト選考部会

昨年度の明治大学図書館書評コンテストは、新型コロナウイルス感染拡大により中止となったが、2021 年度は 2 年ぶりに再開し、第 11 回として実施することとなった。応募要領を 7 月 1 日に公開し、例年通り 10 月に募集を行い、22 編の応募があった（学部：政経 2、文 5、農 2、営 2、情コミ 9、国日 1・院生：国日 1）。剽窃チェックの上、選考部会員・図書館員有志で採点を行い、12 月 7 日の会議で受賞者 8 名を決定した。今年度は文系学生の受賞が多かった。

2022 年 2 月 3 日に表彰式を中央図書館多目的ホールにて行った。また受賞作品集を作成し、2、3 月に中央図書館・和泉図書館で受賞作品の展示を行う際に自由配布した。

なお、募集に先立ち、9 月 22 日に「書評の書き方講座」（講師：文学部 伊藤氏貴先生）を学部生・大学院生を対象として、Zoom 配信で行い、のべ 102 名の視聴があった。録画も行い、9 月 28 日から 10 月 31 日まで学内限定で配信した。

	氏名	所属	学年	書名（タイトル）	著者
最優秀賞	高橋力也	文学部史学地理学科考古学専攻	2	大杉栄評論集	大杉栄
優秀賞	宮根大樹	情報コミュニケーション学部 情報コミュニケーション学科	4	動物農場	ジョージ・オーウェル / 山形浩生 訳
特別賞 （紀伊國屋）	稲葉夏花	文学部文学科文芸メディア専攻	2	オルタネート	加藤シゲアキ
特別賞 （三省堂）	桑島直寛	文学部文学科文芸メディア専攻	1	宮本輝全集第 1 巻～泥の河・螢河・道頓堀河～	宮本輝
特別賞 （丸善雄松堂）	長谷川楓	文学部文学科文芸メディア専攻	2	町でいちばんの美女	チャールズ・ブコウスキー
佳作	石川芳季	政治経済学部政治学科	4	最悪の予感：パンデミックとの戦い	マイケル・ルイス / 中山宥 訳
佳作	宮本萌衣	情報コミュニケーション学部 情報コミュニケーション学科	4	トニオ・クレゲル	トーマス・マン / 高橋義孝 訳

佳作	山田峻輔	国際日本学部国際日本学科	4	朽ちていった命 ー被曝治療 83 日間の 記録ー	NHK「東海村臨界 事故」取材班
----	------	--------------	---	--------------------------------	---------------------

2.14 生田図書館ギャラリー運営部会

ギャラリー展示企画については例年公募を行い、生田図書館ギャラリー運営部会にてスケジュール等を審議している。しかし、2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から Gallery ZERO を閉室とした。

オンライン展示については、「明大建築／計画・設計 スタジオワークス展 2022 WINTER」(2 月 1 日(火)～3 月 25 日(金))を、図書館ホームページ等での広報活動の支援を行った。

メール審議を 2 回実施した。

第 1 回(審議期間 2022 年 1 月 25 日(火)～1 月 31 日(月))

- Gallery ZERO の再開について(承認)
- 2022 年度企画募集について(非承認)

第 2 回(審議期間 2022 年 2 月 7 日(月)～2 月 14 日(月))

- 2022 年度企画募集について(承認)
- まん延防止等重点措置が発令された場合のギャラリー運営について(承認)

以上を踏まえ、2022 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じたうえで Gallery ZERO を再開し、企画募集については募集期間を定めず、随時募集とすることとした。

2.15 図書館活用法運営部会

図書館活用法運営部会は、全学共通総合講座「図書館活用法」を適切に運営することを目的として、図書委員会の下に設置されており、図書館長、副館長、授業コーディネーター、職員で構成されている。

2021 年度の授業は、駿河台、生田で各 1 コマ、和泉で 2 コマの合計 4 コマをオンデマンド型のオンライン授業として実施した。会議においては、オンライン授業の検証を中心に各授業の実施状況の振り返りを行うとともに、学内でメディア授業に関するガイドライン等が整備されたことから、2022 年度からメディア授業科目として開講することとし、当該ガイドラインに基づき、授業運営方法、成績評価方法の見直しを行った。また、授業内容等を踏まえて、総合数理学部生の履修先を生田キャンパス開講コマに変更した。

図書館活用法運営部会作業グループ

図書館活用法運営部会作業グループは、図書館活用法運営部会の下に設置されており、各図書館事務室の職員で構成されている。

2021 年度は、オンライン形式にて会議を 4 回開催し、主に以下のことを行った。

- 授業改善アンケート、講師コメントに基づく授業内容及び実施方法の検証
- 「「図書館活用法」到達目標に必要なスキル」及び「授業指針」の改定案作成
- データベース等を利用する授業回での注意説明実施に関する検討
- メディア授業科目化にあたっての授業運営、試験実施方法等の検討
- 電子ファイルの管理保存ルールの策定

2.16 閲覧部署連絡会

閲覧部署連絡会は、図書館のサービスを改善するために、閲覧担当部署の円滑な運営を目的として、図書館利用規程に関する事項、貸出・蔵書業務に関する事項、レファレンス・マルチメディア業務に関する事項、その他連絡会が必要と認めた事項について審議する。

2021 年度は、2020 年度に引き続き、活動制限指針が設けられたため、それに対応したサービスを行うべく、検討・対応を行った。連絡会は主に Teams やメールを利用して適宜行った。

在宅受講特別配慮認定者への郵送サービスを表 1 のように行った。なお、秋学期実施時には、図書郵送貸出サービス対象者への通知もれが発生した（学部生 3 名、大学院生 1 名）。通知ができなかった対象者には、サービス期間を延長することとし、2 月 22 日まで実施した。

表 1 在宅受講特別配慮認定者への郵送サービス

	春学期	秋学期
図書貸出	5 月 24 日～7 月 31 日	10 月 7 日～2 月 3 日 * 通知ができなかった対象者へは 2 月 22 日まで実施。
所蔵雑誌複写・ILL 複写	5 月 24 日～7 月 31 日	10 月 1 日～2 月 3 日
図書複写 * 対象は外国に居住する留学生	6 月 28 日～7 月 31 日	10 月 1 日～2 月 3 日

7 月には、活動制限指針がレベル 1 から 2 に引き上げられ、試験期ということから、来館困難な学生を対象とした郵送サービス（図書貸出、所蔵雑誌複写、ILL 複写）を 7 月 14 日～7 月 31 日まで実施した。

また、新型コロナウイルス感染症対応として、通常期と異なる運用をどこまで通常期に戻せるかの検討も随時行ってきた（一例として以下）。

- 貸出冊数の変更（通常の 2 倍から通常どおりに戻す）
- 予約棚の取置期間の変更（2 週間から 1 週間へ）
- 貸出延滞者へのハガキによる督促の再開（学外者を除く）

活動制限指針レベル 1 以上の期間が継続し、学外者の利用再開の目途がたたないことから、2022 年 1 月に、2020 年度図書館利用登録・更新手続きをしたリバティアカデミー会員への返金を行った。

活動制限指針レベル 0 になった際は、学外者の入構が認められる可能性が高いことから、学外者の利用再開順序などの検討を開始した。関連して、かねてより年度末・年度初めに更新者が殺到していた校友のライブラリーカード有効期限を「1 年度」から、「登録・更新日より 1 年間」に変更することとした。

他には、懸念事項であったライブラリーカード申込書の書式変更を行った。ライブラリーカード申込書は 7.0mm × 11.5mm と変形サイズであり、記入できる情報が少ないことから、申込書のホームページへの掲載も見越して、A4 サイズへ変更し、記入する情報の精査も行った。なお、写真の必要性も検討した結果、不要とすることとし、名称も「図書館利用申込書」に変更した。あわせて、ライブラリーカード規程等一覧の修正も行い、名称を「利用者区分別閲覧サービス一覧」とした。また、2020 年度に次期ライブラリーカード検討 WG で検討してきたとおり、ライブラリーカードの印刷を、写真・ロゴ無しとし、カラー印刷からモノクロ印刷に変更して、2022 年度から運用開始ができるよう、準備をすすめた。

2.17 利用案内編集分科会

『学生用図書館利用案内』と『らいぶ』を統合し、新しい『学生用図書館利用案内』を発行した。また、『教員用図書館利用案内』（PDF 版）も発行した。

第 1 回（7 月 15 日 Zoom 開催）

- 『学生用図書館利用案内』と『らいぶ』の統合について
- 「利用案内編集分科会」と『らいぶ』（図書館報）編集分科会」の統合について

第 2 回（11 月 15 日 Zoom 開催）

- 新しい『学生用図書館利用案内』について
- 『教員用図書館利用案内』について
- 今後の編集作業スケジュールについて

『学生用図書館利用案内』

- A4 判型 20 ページ
- 5,500 部 2022 年 3 月発行

『教員用図書館利用案内』

● A4 判型 12 ページ

● 各事務室で印刷 2022 年 4 月発行

2.18 『らいぶ』（図書館報）編集分科会

『学生用図書館利用案内』と『らいぶ』の統合に伴い、「利用案内編集分科会」と『らいぶ』（図書館報）編集分科会」は統合した。統合後の「利用案内編集分科会」にて、新しい『学生用図書館利用案内』を発行した。これに伴い『らいぶ』は第 26 号（2020 年 3 月発行）で終刊となった。

2.19 中央学習用図書選書分科会

中央学習用図書選書分科会（以下、選書分科会）は、「明治大学図書館中央図書館学習用図書選書分科会運営内規」に基づき、中央図書館事務長を座長とし、座長が指名した中央図書館事務室及び図書館総務事務室の職員により形成。本分科会は、原則、隔週で開催しており、和書 4 社、洋書 2 社の見計らいによる新刊学習用図書の選定や寄贈本の受入可否決定等を行っている。2021 年度は 20 回選書分科会を行った。

選書にあたっては、学生が図書館に来館することが難しいことを考慮し、電子ブック Maruzen eBook Library の試読サービスを継続。試読利用の多いタイトルを購入した。シラバスの参考図書欄掲載図書について、洋書はすでに電子ブックを優先して購入していたが、和書も同様に購入した。各学部が毎年発行するシラバスや演習案内等が冊子体から電子資料のみへ変更しつつある。このシラバス等の電子資料を図書館で収蔵するか否かについて検討した。記録保存する媒体も経年劣化することや、利用者が閲覧しにくいこと、教務事務室で過年度発行したシラバス電子資料の保存方法を検討中ということから、図書館ではシラバスは冊子のみ所蔵し、電子資料は保存対象としないこととした。

なお、図書館基礎資料選定分科会に Oxford Handbooks Online 掲載タイトル、Oxford Scholarship Online 掲載タイトル、Cambridge Core eBooks 掲載タイトル（全て 2022 年度の E B A 環境提供付き）を選定・推薦し、採用された。

2.20 教員による生田図書館学習用図書選書分科会

「教員による生田図書館学習用図書選書分科会運営内規」に基づき、理工学部、農学部の各学科等より選書委員を選出した。例年であれば新任の選書委員に対して個別説明会（ガイダンス）を実施するが、2021 年度も新型コロナウイルス感染症の影響で実施しなかった。また、選書委員にお願いしている見計らい図書の選書についても 2021 年度も実施していないが、それに代わり「学習用図書推薦」を依頼した。この他、例年と同様に夏休みの読書支援として「緑陰読書～教員がすすめる本」を企画し、教員へ図書の推薦を依頼した。

2.21 オンラインサービス WG

2020 年度から、全面的に改訂すべく作業を行ってきた英語版 HP は、その作業が完了し 5 月 21 日にリニューアル公開した。これにより、図書館 HP は日本語版、英語版共に大学 HP サーバへ全面移行し運用することとなった。日本語版 HP は「自宅からも使える電子資料（まとめページ）」の内容・構成を大きく見直し、基本ツールを中心としたオンライン情報利用の入門的な案内となることを重視して改訂、5 月 26 日から「自宅からも使えるおすすめオンライン情報源（まとめページ）」とタイトルを変えて更新した。2021 年度のトピックとして、利用者によるデータベースの利用規約違反があったことが挙げられる（「1.3 電子資料の利用規約違反への対応」を参照）。この対応として「オンライン情報源」のページへアクセスした際に、オンライン情報源を利用する上での注意事項を記載したモーダルウィンドウを表示するようにしたほか、「オンライン情報源」ページへ注意喚起の文章を追加するなどして、利用ルールの周知とその順守を促す対策を行った。

2.22 電子資料 WG

本 WG は電子資料分科会メンバーのうち職員のみで構成され、電子資料分科会での審議等のため準備作業が必要に応じて行うために設置されている。

2021 年度も前年度に引き続き対面での会議は実施せず、メーリングリストや Teams を活用し日常的に発生する業務連絡を中心に行った。

2.23 リテラシーイベント WG

図書館講演会「読書人カレッジ」の企画運営を行った。講演会の詳細は「1.4 読書人カレッジの開催」を参照。MBA（Meiji Book Avenue：図書館公認読書推進学生団体）は、和泉図書館おすすめ本コーナーでの展示・入替、明大祭などでのビブリオバトル開催、作品を語る会、読書会、黙々読書、POP 制作会を行った。また秋学期に、就職キャリア支援センターが主催する「チャレンジガイドセミナー」（1・2 年生向け、部署横断型のイベント紹介企画）に参加し、電子ブックやデータベースの紹介と、読書人カレッジの案内を行った。イベントの広報にあたっては、MEIJI NOW 内に学生が一元的に学内のさまざまな学生サポート体制を知ってもらうため、大学の各部署から学生に実施しているイベントなどを横断的にまとめた「明大生のための！！学生生活充実サポート」ページが立ち上げられ、図書館もこのページを積極的に活用し、広報活動を行った。